

## 「勝負どころ」

滋賀銀行 取締役本店営業部長 森本 勝



今年はスポーツの話題満載の夏でした。「リオ・2016」。地球の反対側で繰り広げられる、日本から言えば「未明の熱戦」に「少々寝不足」という人も多かったのではないのでしょうか。滋賀県や県内企業出身選手の活躍にテレビの前でつい声をからしてしまいました。

4年に一度の“一発勝負”の大舞台では、平常心では到底戦えません。しかし、大舞台だからこそ出る力、本人も気づかなかった力が出るものと考えます。もちろん、この背景には、ある選手が前回オリンピック以後を「地獄の日々」と振り返ったように、苦しい練習の積み重ねがあつたのだと思います。

加えて私は、選手の戦う姿に「選手たちは、技能はもちろん、果たして『勝負どころ』をどう見極めているのか」ということに関心を持ちました。そして、それぞれが持つ“強み”と“弱み”を凝視し、戦術を選び、組み立て、実戦で徹底できた選手こそが試合に勝てるのだ、と思

いました。

この夏のもう一つの話は、42歳で大リーグ3千本安打を達成したイチロー選手。「投高打低」のなか、数々の「勝負どころ」を支え続けたのは強い精神力と言われます。ゼネラルマネージャーは偉業達成の決め手を「崩れない精神力」としています。

オリンピックで、過去に出したことも無い好記録を出す若い選手たち。記録を次々と塗り替えるイチロー選手。その活躍ぶりに、日々の練習で培った実力を「勝負どころ」に集中できる気迫の重要性を思いました。

私たち金融機関はもちろん、すべての企業は激動の時代に突入しています。そして、日ごろの努力を重ね、今こそ目指すべき目標、いわば「勝負どころ」にしっかり向かうことの大切さを改めて思う今年の夏でした。

## しがぎん TOPICS

### 「しがぎんジュニア探検隊」を初めて開催

当行役職員の子もたちが銀行のしくみを学び、仕事を体験する「しがぎんジュニア探検隊」を8月19日、初めて開催しました。

これは、子どもたちが親の仕事を知り、親子のコミュニケーションを深めるためのきっかけづくりと、「働くこと」や「社会」に触れ、銀行やお金の役割を学んでもらう金融教育の場として企画したものです。当日は、小学生1年生から6年生までの40人が参加しました。

初めに銀行の役割について学んだ後、札勘定に挑戦。1万円の模擬紙幣100枚を手に取り、行員に指導を受けながら、数回に分けて数え上げました。また、当行のイメージキャラクター「しがの助」、行員の一人「ペッパー」との交流や記念撮影の後、貨幣資料室で貨幣や銀行の歴史について学びました。最後は、本店営業部など実際に親の働いている場所を見学し、終了となりました。

参加した子どもたちからは、「お札を数えるのは難しい。お父さんは速く数えられると聞いてすごいと思った」「楽しかった、あっという間だった」などの感想を聞くことができました。

当行は「役職員一人ひとりの働きがいのある職場づくり」を目指すとともに、CSR憲章（経営理念）にある「地域社会」「役職員」「地球環境」との共存共栄に今後も努めてまいります。



参加した子どもたち。楽しい夏休みの1日となったようです